

## 動物用医薬品

平成30年1月改訂

貯法 室温保存

承認指令書番号	11番A第2579号
販売開始	平成13年10月
再審査結果	平成21年7月6日

## 塩酸クレンブテロール製剤

劇薬 要指示医薬品 指定医薬品 使用基準

ベンチプルミン<sup>®</sup>-シロップ

## 【成分及び分量】

品名	ベンチプルミン-シロップ
有効成分	塩酸クレンブテロール
含量	100mL中2.5mg

## 【効能又は効果】

肺炎の子馬で見られる呼吸器症状（労作性呼吸、発咳、鼻汁排泄など）の軽減

## 【用法及び用量】

添付の定量噴射ポンプを用いて、1回、体重125kg当たり4mL（塩酸クレンブテロールとして0.8 $\mu$ g/kg）を、朝夕2回、ポンプの先端を口腔内に挿入した後、本体との接合部までポンプの頭部を押し込み、強制経口投与する。

## 【使用上の注意】

（基本的事項）

<p><b>1. 守らなければならないこと</b> （一般的注意）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。</li> <li>本剤は、効能・効果において定められた目的のみ使用すること。</li> <li>本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。</li> <li>本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。</li> </ul> <p>注意：本剤は医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物（馬）について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守して下さい。</p> <p>馬：食用に供するためにと殺する前28日間</p>
---

## （取扱い及び廃棄のための注意）

- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 本品の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。
- 誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れ替えないこと。
- 使用期限を過ぎたものは使用しないこと。
- 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い、処分すること。

## 2. 使用に際して気をつけること

（使用者に対する注意）

- 誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。なお、本剤の添付文書を持参することが望ましい。

（馬に関する注意）

- 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

（取扱いに関する注意）

- 本剤は、飼料等に混ぜて使用せず、強制経口投与すること。
- 本剤は、添付の定量噴射ポンプを用いて、用法・用量の通りに強制経口投与すること。

## （専門的事項）

## ①対象動物の使用制限等

- 本剤は、子馬専用なので、子馬のみに使用し、成馬及び他の動物種には使用しないこと。
- 本剤は、牛、豚等の肉質の改善の目的等には使用しないこと。

## ②重要な基本的注意

- 本剤は、子馬の労作性呼吸、発咳、鼻汁排泄等の諸呼吸器症状の軽減・緩解を目的とするもので、肺炎の治療には抗生物質等を併用することが必要である。
- 投与期間は、肺炎の病態や罹病期間等によって異なるが、原則として10日間とする。

## ③相互作用

- プロスタグランジンF<sub>2</sub> $\alpha$ 、オキシトシン又は $\beta$ 受容体遮断薬と併用した場合、これらの薬剤の効果が減弱することがある。
- 局所麻酔剤との併用投与、特にアトロピン前投与時には、血管拡張と血圧低下作用の増幅が見られることがある。
- コルチコステロイドは、交感神経作動性の代謝や血管拡張作用に影響を及ぼすことがあるので、本剤との併用は避けることが望ましい。

## 【薬理学的情報等】

（薬効薬理）

本剤はドイツにおいて開発された塩酸クレンブテロールを有効成分とする作用持続時間が長く、 $\beta_2$ 受容体選択性の高い気管支拡張剤です。クレンブテロールは、気道平滑筋を選択的に弛緩させ、患馬の閉塞性呼吸器症状を軽減・緩解します。

## 【包装】

355mL 1瓶  
（1回、4mL噴射の定量噴射ポンプ付き）


## 【有効期限】

最終有効年月を外箱及びラベルに表示

## 【製品情報お問い合わせ先】

ベーリンガーインゲルハイム  
アニマルヘルス ジャパン株式会社  
〒141-6017 東京都品川区大崎2-1-1  
TEL 03-6417-2800

製造販売元

 **Boehringer Ingelheim** ベーリンガーインゲルハイム  
アニマルヘルス ジャパン株式会社  
東京都品川区大崎 2-1-1

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。